

目次

1. 日本の観光業の現状
2. タイの観光産業からの学び（コロナ対策、受入体制など）
3. 強み×強みによるタイの観光業の発展
4. 日本の医療ツーリズムの可能性

問題意識

新型コロナウイルスの感染拡大前は日本のインバウンドは増加していき、2019年は過去最高の3,188万人を記録したが、世界的なパンデミックによりインバウンドは大きく減退し、観光業は大打撃を受けた。

そこで、医療ツーリズムを推進し、観光大国と医療大国と二つの強みを持つタイに着目し、タイはどのように医療ツーリズムを促進していったのかを明らかにしたうえで、日本の医療ツーリズムの可能性について検討してみたい。

内容

- ・2020年4月新型コロナウイルスの感染症の拡大によって海外から日本への渡航が途絶え、インバウンド需要がほぼ消滅した。
- ・「観光大国」タイは「テスト・アンド・ゴー」制度によって大規模緩和政策によって日本よりも早く観光業を復活させた。
- ・タイは「医療大国」でもあり、「メディカル・ハブ5ヵ年計画」を策定し、医療サービスなどの向上を積極的に行った事で世界から多くの患者が訪れるようになり、観光業だけに頼らない医療ツーリズムという二つの強みを持っている。
- ・日本も医療制度が充実しており、病床数も多く医療の質も世界と比べて高いが、重篤患者に対する対応に弱く、一床に対して対応する医師が少ない為緊急時の対応に弱い。

結論

日本の医療ツーリズムは、重篤患者の対応の弱さや医師の人材不足など課題はあるが、世界から愛される文化や伝統、豊かな自然など医療ツーリズムを促進させる観光資源は豊富である。このため、現在抱えている課題を産官学民が協働して解決することができれば医療ツーリズムの拡大とともに国全体の経済を支える重要な産業として繁栄する可能性を秘めていると考えられる。